

平成28年度 学力向上指導改善プラン

三輪小学校長 植野 豊 印

学校教育目標		人も自分も・学校もふるさと大切にできる子の育成						
推進主体		管理職と学校教育改革推進委員会、研究推進委員会を基に学力向上委員会を組織						
学力に関する前年度の課題・経年の課題								
学力の状況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	<p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話すこと、聞くこと、書くことに関しておおむね満足できる状態ではあるが、取材した内容を整理しながら記事を書くこと、文章と図を関係つけて自分の考えを記述することには課題がある。 ・出題された漢字の読み書きや、目的に応じ中心となる語や文をとらえることについては満足できる状態にある。今後さらに語彙指導に重点を置く必要がある。 <p>算数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小数や整数の四則計算や、分数の計算技能についてはおおむね身につけているが、概数を用いて見積もりを行い、その根拠を明確にすること課題がある。 ・基本的な平面図形の性質をおおむね理解しているが、分割された2つの図形の面積が等しくなる訳を記述することに課題がある。 ・単位量あたりの大きさを用いて代金を求める技能についておおむね身につけているが、基準量、比較量、割合の関係をとらえ、基準量を求めることに課題がある。 	<p>4月</p> <p>成果となる目標 (指標となる数値等)</p> <p>具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)</p>	<p>10～11月</p> <p>中間評価</p>	<p>2～3月</p> <p>年度末評価</p>	評価		
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> ・数字や記号、言葉で答えるような基本的な問いには答えることができるが、記述式の解答が苦手だと感じている児童がいる。 	<p>○学習意欲を高め、基礎基本の定着を図る。個に応じた学習支援の充実を図る。</p> <p>○国語科において一人学習を充実させ、多様な意見が交流できる授業改善を図る。</p>	<p>○「読書タイム」の実施</p> <p>○聞き手を意識した話し方の習得</p> <p>○学習課題にせまる一人学習の充実</p>	<p>○「読書タイム」の取り組みを引き続き継続する中で、読書習慣を身につけさせる。</p> <p>○年間を通して季節をテーマにした俳句づくりに取り組み、詩や俳句に触れる機会を多く持たせる。</p> <p>○単元ごとの「つきたい力」を明確にし、学習課題を解決するための一人学習を行い自分の考えを持たせる。</p>	<p>○今年度の全国学力・学習状況調査、研究の成果などを踏まえての設定目標等の見直し)</p>	<p>(今年度の成果と来年度に向けた課題等)</p>	B
	授業等からうかがえる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> ・下学年では落ち着いて話を聞く姿勢に課題のある児童もいる。 ・意欲的に取り組み、友だちや先生の話をよく聞くことができるが、自分の考えを伝えることが苦手な児童がいる。 ・ペアークやグループワークでは発表できるが、全体の場では発表が苦手だと感じている児童がいる。 	<p>○新学習システム教員、学力向上支援教員と担任が連携しながら、基礎基本の定着ときめ細かな指導の充実を図る。</p> <p>○算数科において課題解決の達成感が感じられるような授業改善を図る。</p> <p>○根拠をもとに考えたり、発表したりして自分の考えを説明することができるようにする。</p> <p>○兵庫がんばりタイムを設定し、基礎基本の一層の定着を図れるように支援を行う。</p>	<p>○計算博士の実施</p> <p>○問題解決の道筋や根拠が明確なノート作りの充実</p>	<p>○朝学習として「計算博士」を行い、一人一人のめあてを明確にし、スモールステップで評価することで、達成感を持たせる。</p> <p>・基本的なノート作りの見本を提示する。</p> <p>・振り返りをし、授業の学びを確認することを重視する。</p> <p>・教材研究の時間を確保し、単元計画を作成する。</p>	<p>○朝学習として「計算博士」の取り組みを継続する中で、基礎基本の力を定着させる。</p> <p>○ノートコンテストの実施により、基本的なノート作りができるようになってきた。</p> <p>○引き続き、問題文から、分かったことを整理し、筋道を立てて考え、答えを導き出す思考の流れのわかるノート作りをする。</p> <p>○今後課題解決への見通しを自分の言葉にしていける力を育てる必要がある。</p> <p>○図形の性質などでは、既習事項を正しく使い、ペアークや全体交流の中で、解決に向けての自分の考えを根拠を持って書いたり発表したりしていく活動を仕組む必要がある。</p> <p>○授業のめあてを明確にし、めあてに沿った振り返りの場を設定する。</p> <p>○兵庫がんばりタイムを効果的に活用し、担任や外部ボランティアと連携して基礎基本の定着を図っている。</p> <p>○校内でも週1回3年生から5年生まで学力向上支援教員、新学習システム教員と担任が連携しながら重点指導をする。</p>	<p>○今年度の成果と来年度に向けた課題等)</p>	A
学力向上に慣れる学状況習慣・生	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲・生活習慣については、おおむね良好である。 ・「友達同士で話し合っって学級のきまりを決める」、「協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」の質問に対して肯定的な回答比率が高い。 ・将来の夢や目標を持つこと、家で学校の授業の予習や復習をすることに課題がある。 	<p>○校内研究において「ともに学び合い高め合う子に～伝え合う場の設定～」というテーマに沿って、「教材解釈の充実～子どもの読みを生かしながら～」や「言語活動の充実～一人学習を生かしながら～」や「言語活動の充実～掲示・板書・ノート～」を研究の柱として、子どもたちの「学び合い」を高める授業研究を進めていく。</p>	<p>○粘り強く頑張りぬく子の育成</p>	<p>○2月の研究発表会の前に、各学期に1回講師を招聘した研究授業を実施する。</p> <p>○研究授業での成果や課題、学びを、日々の授業に生かしていく。</p> <p>○低・中・高学年が研究母体となり、児童に「言葉の力」をつけていくとともに、「伝え合い」の場を設定し、「聞き合い」の視える化を図っていく。</p> <p>○児童一人一人が分かる楽しさを味わえるように絶えず日々の授業を工夫し、個別指導を行う。</p> <p>○学びが連続していくように学習のスタンダードを作っていく。</p>	<p>○今年度の成果と来年度に向けた課題等)</p>	B	
学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭での読書」が十分定着していない。 ・本読み、漢字、計算など基礎的な学習の定着にやや課題が見られる。 ・「決めたことを最後までやり遂げる」の項目で、児童と保護者の意識に差が見られる。 	<p>○将来の夢や目標を持つことができるように、キャリア教育の充実を図る。</p>	<p>○質問紙調査結果の向上</p>	<p>○キャリア教育の年間指導計画を作成する。</p> <p>○6年生を中心に「ふるさと三輪」の学習を充実する。</p> <p>○6年生を中心に国語科や総合学習、道徳においてプロフェッショナルたちの生き方につなげる。</p>	<p>○キャリア教育の年間指導計画を年度内に作成する。</p> <p>○6年生の「ふるさと三輪」の学習を始めとして、各学年で地域に学ぶ学習を行っている。</p> <p>○6年生を中心に国語科や総合学習、道徳においてプロフェッショナルたちの生き方につなげる学習を充実していく。</p> <p>○「意見を発表することが得意」や「友だちの話や意見を最後まで聞く」について肯定的な回答をした児童の比率が高い。国語の研究の成果が表れてきている。</p>	<p>○今年度の成果と来年度に向けた課題等)</p>	B	
研校内の研究状況	校内研究の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「伝え合い」「聞き合い」の視える化を充実することで、学び合いを確かなものにする(視える化の充実) 	<p>○読書活動を充実させ読むことへの関心を高める。</p> <p>○貸出冊数の増加</p> <p>○学校評価アンケートの肯定評価増加</p> <p>○学習相談日の活用</p>	<p>○読書カードを活用し個人・学級の読書履歴を残していく。</p> <p>○学年・学級文庫に加え学習に応じた調べ学習コーナーを設ける。</p> <p>○毎月23日の家族読書の日には、子どもや家庭に読書を呼びかける。</p> <p>○学校司書や学校ボランティアによる読書活動の取り組みを推進していく。</p> <p>○「家庭学習の手引き」をもちに、低学年から家庭学習の時間目標を示し、習慣づけを行う。</p> <p>○水曜日6校時に年間13回学習相談日を設け、基礎学力の定着を図る。</p>	<p>○読書通帳を活用することにより、読書習慣の確立を図る。</p> <p>○低学年のうちに家庭学習の時間目標を示し、習慣化を図っていく。</p> <p>○「家庭学習の手引き」を活用してもらえよう、保護者に呼びかける。</p> <p>○音読や計算、漢字の書き取りなどを中心に、家庭との連携を図りながら、学習習慣の定着を引き続き図っていく。</p> <p>○八景中学校区連携の取り組みの1つとして、読書50冊、おすめ本10冊達成と、なわとびの技の上達をあげており、全学年で取り組んでいる。</p> <p>○図書ボランティアによる読み聞かせ、読書ビンゴなどの取り組みを継続していく。</p> <p>○88.7%が「読書が好き」と答え、93.0%が「国語の勉強は大切だ」と捉えており、引き続き、読書活動を推進していく。</p>	<p>○今年度の成果と来年度に向けた課題等)</p>	B	
研校内の研究状況	校内研修の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中を活用し、講師を招聘するなどして、毎年必要な研修を計画的に行っている。 	<p>○一人一授業を公開</p> <p>○研究発表会の開催</p>	<p>○授業づくりの観点を整理し、外部講師を招聘して、研究成果を明らかにする。</p> <p>○学校組織としての取り組みを自覚し、全教職員一丸となって指導に当たる態勢を作る。</p>	<p>○全教職員が国語科及び専科教科の年間計画を作成し、授業研究を通して児童に「言葉の力」をつけていく。</p> <p>○授業と日常の学習をつなぎ、多面的な視点にたつて、「言葉の力」の育成に取り組むとともに、「伝え合い」の場を設定し、「聞き合い」の視える化を図っていく。</p> <p>○学年、学団による事前研究・事後研究の充実を図る。</p>	<p>○今年度の成果と来年度に向けた課題等)</p>	B	
家庭連・携校種間	家庭・地域等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に家庭学習を進めることについて家庭の協力を得ることが難しい児童がいる。 	<p>○どのクラスでも、宿題内容の簡素化を図り、漢字や計算練習、音読など決められたことを必ずできるようにする。</p> <p>○家庭学習の充実を目指し、「家庭学習の手引き」の更なる活用を目指す。</p>	<p>○宿題忘れ減少</p>	<p>○児童の学習実態に応じて担任による放課後指導や外部学習支援ボランティアの活用を継続していく。</p> <p>○児童の学習実態に応じて放課後指導をしたり、宿題を出したりすることで、家庭学習の定着を図っていく。</p> <p>○外部学習支援ボランティアを活用しながら基礎基本の定着を図る。</p>	<p>○今年度の成果と来年度に向けた課題等)</p>	A	
家庭連・携校種間	小・中における教科連携等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・八景中学校区(幼・小・中)で目指す子ども像を定め、共通した目標を設定し、指導の充実を図っていく。また、保護者の協力のもとで「家庭学習の手引き」を活用していく。 	<p>○中学校卒業時の目指す子ども像を明らかにし、八景中学校区で学習や学校生活におけるきまりや規則、努力目標を統一し、指導の一貫性を図る。</p>	<p>○幼小中教員の定期的な交流を行い、共通理解のもと学習指導や生活指導に取り組む。</p> <p>○出前授業(理科・英語)や社会体育での交流を通して、学習に対する児童の興味関心を高める。</p> <p>○家庭学習の手引きについて保護者にも説明し、協力を求めながら活用を図る。</p>	<p>○八景中学校区間で定期的な交流を図り、生活指導や出前授業(理科・英語)、社会体育での交流を通して、課題を共有したり、学習に対する児童の興味関心を高めたりしていく。</p> <p>○互いの授業参観の機会を設定し、教師間の交流を図る。</p>	<p>○今年度の成果と来年度に向けた課題等)</p>	A	